

佐倉と
いえば?



城下町?
印旛沼?

国史跡 井野長割遺跡 指定15周年記念展示

ぜーんぶ佐倉の 縄文展

—地面の下の造形美—



縄文
でしょ!



佐倉市教育委員会

文化庁補助事業「地域の特色のある埋蔵文化財活用事業」

ごあいさつ

今から約1万3000年前、日本列島では氷河期が終わりに近づき、温暖化が進むことで、豊かな自然環境が形成されました。人々は「集落」につどい、「土器」を作り使い、人々の営みが生まれました。そうして約1万年間続く縄文時代が始まりました。

佐倉でも印旛沼水系の豊富な水資源を背景に縄文文化が発展しました。千葉県指定史跡である上座貝塚をはじめ、江原台遺跡、吉見台遺跡など市内全域にわたり縄文人の生活の痕跡が発見されています。中でも井野長割遺跡は、縄文時代中期から晩期(今から約5500年前～2500年前)にかけて計画的に営まれた集落跡である点や「環状盛土遺構」が明瞭に残っていることから、縄文時代の社会・文化を考える上で重要な遺跡であると位置づけられ、2005年に国の史跡に指定されました。指定後は、隣接する井野小学校での授業や地域住民を対象とした現地説明会など様々な事業を行い、普及啓発活動に努めてまいりました。

このたび、井野長割遺跡の国指定15周年を記念して、「ゼーンぶ佐倉の縄文展—地面の下の造形美—」を開催することとなりました。本展示は、佐倉市内の発掘調査などで出土した遺物のみをテーマごとに展示します。自然の恵みを得るための知恵や技術、縄文人たちの交流やモノの移動を土器や土偶などの出土品を通じて紹介します。本展示を通じて、近世の城下町の佐倉だけでなく、「縄文時代の佐倉」の魅力を感じていただくきっかけとなれば幸いです。

展示の開催にあたり、発掘調査や整理作業にご協力いただきました皆様、並びに企画・展示に関してご教示、ご協力いただきました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

佐倉市教育委員会

※遺物名称の前の数字は、展示リストの番号です。

エリア 1

ドキドキ！ 縄文の造形

縄文人が作り出した土器などの造形には、現代にも通じる美しさがあります。土器という容器としての機能に加え、規則的に描かれた文様、選び抜かれた粘土を使い、外面をピカピカに磨き上げ、装飾にこだわったその形状は、縄文人の高い精神性を感じさせます。

展示では、縄文時代中期から晩期までの特色ある造形を持つ土器や土製品を選びました。数千年前の縄文人がどのような思いで、これらを使用していたか想像してみたいかがでしょうか。

形と文様の造形美

つぼかた
1. 壺形土器(吉見台遺跡)
2カ所の把手をつけた流線形の縄文時代後期の壺。



あざぼち
5. 浅鉢形土器(吉見台遺跡)
黒光りした薄い土器の表面上に精密な文様を描いた縄文時代晩期の土器です。



縄文の闇を照らす

こうろ
10. 香炉形土器(井野長割遺跡)
上部と脇に紐を通すための穴があるので、紐で吊るして火を焚いていたと考えられます。縄文時代後期。



てしやく
12. 手燭形土製品(吉見台遺跡)
東京国立博物館「縄文」展(2018年開催)に出品された日本最大級の大きさのものです。朱が付着しているため、全体が赤く塗られていたと考えられます。



縄文人はお酒好き？

ちゅうこう
6. 注口土器(宮内井戸作遺跡)
選び抜かれた粘土を使い、極細の工具で繊細な文様を刻み、土器の表面を磨き上げています。



ゆうこうつばつき
9. 有孔罎付注口土器(江原台遺跡)

縄文時代中期後半に作られた瓢箪の形のような曲線美の土器。注口部があるので酒などの液体を注ぐ用途と考えられています。



エリア 2

佐倉土偶コレクション

意外と知られていませんが、佐倉市には縄文時代の大規模な集落が多くあり、土偶が非常に多く出土する地域なのです。土偶は妊娠した女性像を表現していると考えられています。土偶の多くは、手足などの部位がバラバラで出土し、壊れていないものはあまり見つかりません。縄文人は土偶を故意に壊すという祈りの儀式を行っていたと考える研究者もいます。

土偶の形式には、山形、ミミズク、遮光器、筒形などがあり、種類も豊富です。あなたのお気に入りの土偶はどれですか？

ミミズク土偶



14. ミミズク土偶(宮内井戸作遺跡) 15. ミミズク土偶(吉見台遺跡)

顔の形がミミズクに似ているので、名づけられました。高く盛り上げ結われた髪形、ポタン状の粘土の貼り付けによるつづらな瞳と口、両耳にはピアスをしたおしゃれな縄文美人です。

筒形土偶

19. 筒形土偶(宮内井戸作遺跡)

手足の表現のない縄文時代後期の土偶です。眉や鼻を粘土で盛り上げて作り、目や口は棒状工具で突き刺して表現しています。



遮光器土偶

縄文時代晩期に東北地方で作られた遮光器土偶を模倣した土偶です。宮内井戸作遺跡では岩手県周辺で作られた遮光器土偶の胸部が出土しており、佐倉の縄文人は本物を真似て作った可能性があります。



18. 遮光器土偶(吉見台遺跡)

17. 遮光器土偶(宮内井戸作遺跡)

山形土偶

13. 山形土偶(吉見台遺跡)

頭が山のような形をしており、大きな乳房と張り出したお腹が特徴的です。粘土を貼り付けて目鼻などを表現しており、佐倉では最も多く出土する形状の土偶です。



エリア 3

縄文アニマルズ

現代はかわいい動物が人気で、毎日のようにテレビやSNSで映像が流れるのを見ると、人と動物との距離が近いように感じられます。

このエリアでは、イノシシや犬、水鳥などを展示しています。これらは抽象的な表現で形作られています。

特に多く作られたイノシシは貴重な食料として、市内の貝塚からも獣骨が多く出土していますが、その反面、人間を傷つける畏怖すべき存在でもありました。イノシシ形土製品は、ユーモラスな形状ですが、玩具ではなく、狩猟に関する儀式などで使用されたと考えられます。

また、めったに絵を描かない縄文人ですが、吉見台遺跡から出土した土器には、鳥が線刻されていました。発見された1984年当時は新聞記事にも掲載され注目を集めました。



25. イヌ形土製品(吉見台遺跡)

イヌは狩りのパートナーとして、縄文時代でも飼われていました。獲物に向かって吠えているようです。



イノシシたち



21. イノシシ形土製品(井野長割遺跡)

板状の粘土を貼り付けて作られています。顔を上に向け、口を開けています。



22. イノシシ形土製品(吉見台遺跡)

目鼻の表現はありませんが、威嚇するように口を開けています。



23. イノシシ形土製品(吉見台遺跡)

たてがみの表現からイノシシだと考えられます。

なんの動物だろう？



27. 動物形土製品(吉見台遺跡)

耳のような表現と目・口、お腹の表現だけで、何の動物かわかっていません。



29. 鳥形把手(宮内井戸作遺跡)

鳥や蛇をモチーフにしたもので、土器の縁の上から内側をのぞくように付けられました。



30. 水鳥が刻まれた土器(吉見台遺跡)

煮炊き用の大きな深鉢形土器に、羽根を広げた鳥が小さく線刻されています。吉見台遺跡の貝塚からは、カモ類の骨が多く見つかっており、水鳥を描いたものと考えられます。



エリア 4

遠い海へのあこがれ

「印旛沼は縄文時代には海だったのですか？」と尋ねられることがあります。約8千年前の縄文時代早期は、気温が今より高かったために海水面が上昇し、印旛沼にも海水が入り込み内海となっていました。しかし約5千年前の縄文時代中期から徐々に寒冷化したために海水面が下がり、佐倉で暮らす縄文人にとっても、次第に海は遠いものとなりました。井野長割遺跡の貝塚では海水域の貝はわずかであり、汽水域(海水と淡水が混じる区域)の貝が大部分を占めます。

出土遺物には、アワビやタカラガイをモデルにした土製品、サメの歯のペンダント、海獣形土製品などがあり、佐倉で暮らしていた縄文人には、海はあこがれの場所でした。

33. サメ歯製ペンダント
(宮内井戸作遺跡)

ホホジロザメの歯で作られています。色調から見て化石を使ったと考えられます。この近辺では銚子市に白亜紀の化石産地があります。



原寸大



31. アワビ形土製品(宮内井戸作遺跡)

アワビの殻の外側の突起や内面の光沢を忠実に模倣しています。同様の遺物は吉見台遺跡でも出土しました。



36. タカラガイ形土製品(吉見台遺跡)



32. 海獣形土製品(吉見台遺跡)

頭部や足のひれの表現から、アシカやトドなど海獣の可能性のある土製品は、日本各地から出土しています。この遺物のお腹に空いた穴を吹いてみると笛のような音が出ます。



37. イモガイ形土製品(宮内井戸作遺跡)

タカラガイやイモガイは南方系のカラフルな貝です。海の近くでは貝殻を加工して作った装飾品が流行しました。外海から遠い佐倉の縄文人は、あこがれの貝製品を土で模倣したのです。

エリア 5

縄文人の美と楽しみ

縄文人が身に着けた装飾品は、きれいな石や粘土、獣骨、貝などの様々な素材で作られていました。特に当時も希少なヒスイの垂飾を身に着けることができたのは、特別な人物だったと考えられます。このエリアでは、食料確保などの日常生活以外での縄文人の豊かな精神世界を想像させる遺物を選びました。鳥を模した土笛やスタンプ形土製品、様々な形のミニチュア土器など、遊びやお祭りなどの儀式の様子を想像してみてください。



44. ミニチュア土器(吉見台遺跡)
注口土器、異形台付土器、浅鉢、舟をモデルに精巧に作られた数センチの大きさの土器です。何に使ったのでしょうか？



51. 独鈷石(宮内井戸作遺跡)
仏具である「独鈷石」の形に似ているのでこの名前が付けられています。全国でも出土例が少なく、お祭りなどの儀式で使用されたと考えられています。



46. スタンプ形土製品(吉見台遺跡)
吉見台遺跡から多く見つかりますが、用途は不明です。渦巻や弧状の文様を描いています。



39. ヒスイ製垂飾品(宮内井戸作遺跡)
きれいな緑色をしたヒスイは新潟県糸魚川市周辺が日本唯一の産地で縄文人のあこがれの石です。佐倉では大きな集落から見つかっています。



40. 赤彩土製耳飾(宮内井戸作遺跡)
縄文時代の耳飾りの多くは耳たぶに穴を開けて嵌めるピアスです。この耳飾りは赤色に塗られた彫刻のように美しいものです。



47. 鳥形土笛(宮内井戸作遺跡)
羽根や足の表現や中央の穴があり、吹くと良い音が鳴るので、鳥形の土笛と考えられます。

終わりに

縄文時代は約2500年前に終わり、本格的な稲作が始まる弥生時代となります。有力な集落は周囲に堀を巡らせて戦に備え、さらに古墳時代になると力を蓄えた首長は大和政権の支配下に加わります。歴史は中央集権国家の成立へと向かって大きく流れていきます。

佐倉に暮らしていた縄文人は、新しい生活スタイルをどのように受け入れたのでしょうか？本展示の最後には「オマケ」として、弥生時代から平安時代までの“人面”を並べてみました。令和という時代に生きる私たちも歴史の延長線上にいます。